

4—23

1 (表紙)

■
(破損)
年四月

■
(破損)
訴詔之御請并竹嶋渡海之次第先規より書附之写

伯耆国米子町人

村川市兵衛

大谷政太郎

2 (白紙)

3

一 大廣院様御代元文五年四月從

御国屋敷河村彦十郎様を以

御公儀^江被為遊御達候付、乍恐私共祖父之
者儀

御公儀^江御訴詔之儀共被為逮御沙汰候趣

委^者其節祖父~~木~~九右衛門事参府仕候条~~曲~~

~~曲~~記~~事~~非~~私~~共先祖之者^江竹嶋渡海之儀被為

仰附候次第先規より書付之写左之通御座候、尤右

4

御達之節願書之写如左

伯耆国米子町人

~~柑川市兵衛~~

大谷九右衛門

乍恐奉願口上之覚

先祖

一

竹嶋渡海之儀~~私共祖父~~之者^江被為

仰付候濫觴^者松平新太郎様因幡伯耆

被為遊御領知候節元和三年御仕置之為

5

刻

上使阿部四郎五郎様御越之節乍恐私共先祖之
者儀

権現様以来

御由緒之旨趣共委細書附之差出、右就

御由緒而竹嶋渡海仕度之段相伺、翌元和四年

当御地江先祖之者共相詰右御訴詔申上候之所

御由緒之儀共御吟味之上同年五月十六日

新太郎様江以御奉書願之通渡海可仕之

6

旨被為仰附、則右之

御奉書從新太郎様先祖之者共頂戴仕、就夫

御目見被為仰附冥加至極難有仕合奉存候

其後毎歳渡海仕候處元録(44)五年彼嶋江唐人相渡

依之松平伯耆守様より御注進被仰上、夫より

同六年七年八年迄段々御差図を以渡海仕候所

年々唐人相増候様子ニ付追々

伯耆守様より御注進被仰上候所竹嶋渡海制禁

7

之旨元録(44)九年正月廿八日伯耆守様迄以

御奉書被為仰出候段、則從

伯耆守様被仰渡候御事

一

竹嶋渡海禁制被為仰付候ニ付村川市兵衛儀元録(44)

年中当御地江相詰御歎之御訴詔申上候半病氣

私義者

付先国元江帰度旨御断申上罷帰候、其節大谷丸右衛門

事幼少尤困窮仕候ニ付右市兵衛と一所江当御地

相詰候儀難相成乍存其儀無御座候、其後享保

8

九年四月從

当御代様

竹嶋渡海越方之儀段々被為遊

御尋候付相模守様迄御請書仕指上候、其節

~~大谷丸右衛門~~事何卒当御地江相詰御歎之御願

申上度所存御座候得共困窮仕罷在候故乍残念

遅退仕候御事

右之通元和四年より元録⁽⁴⁴⁾ 四年迄竹嶋^江渡海

9

仕候所彼嶋^江唐人相渡候付渡海禁制被為

仰付候以後~~兩人~~^某渡世可仕様^茂無御座候所

御領主より御憐愍を以先^者及渴命不申様被仰附

置候段是以

御上之御大恩之筋難有仕合奉存上候、然ハ当時
至極困窮及候付乍恐以御慈悲如何様共

取続候様被仰付被為下候ハ、難有仕合可奉存候

全御上^江奉対私共式之ものケ様之御願奉申

1
0

上儀千万恐入奉存候得共

台徳院様

御代元和四年より元録⁽⁴⁴⁾ 八年迄七拾八年之間九年^ニ

老度宛

公方様^江

御目見被為仰附其上御紋之

御時服拝領之仕并道中御紋之指札蒙

御免竹嶋^江渡海之船^江御紋之船印頂戴仕

1
1

且道具蒙御免元和四年より元録⁽⁴⁴⁾ 八年迄

及八拾年毎歳彼嶋^江渡海仕、尤渡海禁制被

仰付候以後今以御領主より及渴命不申様御憐愍之

御儀共是又右書頭候通重々莫太成奉蒙

御恩沢候者之子孫末々^ニ到至極之及困窮、此上

難取続相成候得ハ偏^ニ

廣

御庖恩忘却仕候様^{ニ茂}可罷成哉と誠以不顧恐此

度~~木谷丸~~^{右衛門}相詰~~右兩人~~^者身命相続候様

1
2

御慈悲之筋乍恐奉願上候、何卒願之通被為

仰附被下置候^者難有仕合可奉存候、以上

伯耆国米子町人

大谷九右衛門

元文五年申四月日

寺社御奉行所様

御役人中様方

1
3

右之通御座候

一 右元文五年四月私共祖父之者儀

御公儀^江御訴詔之儀共翌歳寛保改元八月

御請披之儀相濟候付同十二月廿六日從

大廣院様

日光宮様^江為

御使者蓮華寺五郎八様を以其節從

1
4

宮様乍恐私^兼祖父儀御頼被為思召候趣

御請被為仰達候御口上之写并右從

宮様御頼被為思召之趣御坊官万里小路

民部卿様より御宿坊迄被為仰進候所之

御紙上之写如左

護法院万里小路民部卿

1
5

以手紙得御意候、然^{者兼而}

御存知被成候通大谷九右衛門

事京都御外戚清水谷

前大納言殿へ御心安御出入

仕候故彼御方より御頼有之

宮様^{江茂}御目見等被仰付

候事御座候、此度九右衛門

御公儀^江ハ願之筋相濟^{国元}

1
6

伯州米子^江罷歸候由

就夫九右衛門儀米子御城主

不相替只今迄之通万事

御憐愍之御申付被遣候ハ、

宮様御悦可被思召之間

此等之趣無急度貴院より
御檀家御役人中迄宜御申
入可被成候、以上

17

十二月十八日

右之通御座候付御請

御口上之趣御書附之写如左

從松平相模守殿

宮様^江御請口上之趣

一 此度大谷九右衛門儀

御頼被為遊趣承知

18

仕畏奉存候

一 九右衛門

御公儀^江御願申上候義も

御座候此以後右之儀相願候ハ、

役人共評儀も仕可遣之由

此儀ハ津田周防より内々^{ニ而}

護法院迄之口上^ニ候

十二月廿六日護法院

大谷九右衛門へ

5

其方儀

宮様被為添御言葉

御座候、御承知被成候間其旨

相心得可申候、已上

19

右之通御座候

一 右願書之面ニ書頭候通私共先祖之者より尤祖父^共

節迄

■節迄

公方様^江

御目見被為

仰付候節

御紋之時服拝領仕候条、尤

太守様^江

20

御目見之節^茂先祖之者共儀
御紋衣拝領被為
仰付今以右

(貼紙)「此所より志摩様被遣候

御紋衣拝領頂戴仕罷在候、且又私共祖父之者

御書老通入候」

共迄江府相詰候節ハ例月朔日為御礼

太守様^江

御目見被為

(貼紙)

「例月御目見へ被仰付

候節御役人様より

被遣候三通」

仰附候付、右祖父大谷九右衛門儀

(貼紙 下)

2
1

御公儀^江御訴詔、以後尤

大廣院様御代延享元年八月廿二日於

鳥府乍恐

御在国之節年頭

御目見之儀奉願候所達

御聴、則以御書附願之通被為

仰付候之旨、尤

大和様於御館御役人中様より被

2
2

仰渡候趣如左

大谷九右衛門殿 <sup>牛尾金右衛門
上村惣右衛門</sup>

御用之儀有之候間

唯今

御館^江可被出候以上

八月廿二日

大谷九右衛門殿 <sup>牛尾金右衛門
上村惣右衛門</sup>

2 3 (注) 2 3 は横線で見消)

追_而申入候此紙面

昨晚可遣候処、夜_ニ入

候之故今日遣候、何分

早御屋敷へ可被出候

以上

八月廿三日

右之通御座候条、則御書

附之写如左

2 4 (注) 2 4 は横線で見消)

其方儀御在国之

節年頭

御目見願之通被

仰付候

子八月廿二日

右之通御座候

2 5 (注) 2 5 は横線見消)

一 右本文_ニ書頭候通私共先祖之者_江

竹嶋渡海之儀被為

仰附候次第先規より書附之写左之通

御座候、尤有増相遺候書附之写

_{ニ而}御座候、猶以委細ハ此外相遺候

書附所持仕罷在候

2 6 (注) 2 6 は横線で見消)

竹嶋渡海之次第先規より書附之

写如左

2 7

一 貞享元二月

権現様以来之御勘状又_者御由緒之

御書有之候_者早速可相断之旨

御触之節乍恐私共先祖之者儀

権現様御代末正九年四月聊御奉公筋之就

御由緒_市

台徳院様御代元和四年五月阿部四郎五郎様蒙御執持、則

松平新太郎様_江以

28

御奉書竹嶋渡海之儀被為

仰附候次第委細以書附相断之、尤相写差出

候所之右

御奉書之写如左

從伯耆国米子竹嶋_江

先年舟相渡之由候

然_者如其今度致渡

海之段米子町人

29

村川市兵衛大屋甚吉

申上付_而達

上聞候之处不可有異義之

旨被仰出候間被得

其意渡海之儀可被

仰付候、恐々謹言

永井信濃守

在判

五月十六日

30

井上主計頭

在判

土井大炊頭

在判

酒井雅樂頭

在判

松平新太郎殿

31

右之通御座候

一 台徳院様以来

御代々様^江

御目見被為

仰付候節竹嶋蛸二箱献上仕候、尤献上之為

御残御老中様方御側御用人様方

若御年寄様方寺社御奉行様方^{江茂}

3 2 (注 5行目、7行目迄横線で見消)

進上仕候付

台徳院様御代御側御用人松平右衛門太夫様より

御書被成下候々様之類余夥所持仕候處

近所出火損失候

享保年中裏長家ニ住居仕罷在候處類焼仕候

祖父共節~~連紛朱~~申候、尤相残候写如左

一筆申入候、其地へ被参候

付くし蛸三百入老箱

持参候由留主居之者

3 3 (注 4行目迄横線で見消)

共方より日光へ申越候心付

之通祝着申候、尚追^而

可申候間不具候、恐惶謹言

松平右衛門太夫

正綱書印

五月六日

(貼り紙)「右之通御書

外二通入ル」

則大谷九右衛門当之御書有之也

追^而申入候

3 4 (注 3 4は横線で見消)

御目見之儀ハ伊豆方^江

申入候、以上

村川市兵衛殿

参

右之通御座候

一 台徳院様以来

御代々様

(貼り紙)「此所享保三年

十二月出火手入候」
(カ)

35

御上意之趣従

御老中様方被為

仰渡候ニ付右之次第従

阿部四郎五郎様以御書被為

仰越候ケ様之類并

御老中様方より被為預

御挨拶候堅^(マ)御捻其外御役人様方御書

類焼之節損失仕候

中を^茂余夥所持仕候通右書頭之通紛朱仕候

36 (注 36は横線で見消)

尤相残候写如左

好便之間一筆令申候

然^者今度於京都進上

仕度旨被申候桐之木

串炮去月土井大炊頭殿

御披露被成一段首尾

能上り申候、竹嶋^江渡海

37 (注 37は横線で見消)

様子を^茂委

御尋無残所仕合候条

此旨可申遣由大炊頭殿

被仰渡候条如斯候、御披

露之刻則小濱民部方^江

申遣江戸^江迫させ候

得旨

上意付^而小濱民部方へ申

38 (注 38は横線で見消)

越其御請^茂疾当着

候之間満足可有候、片
便宜故令省略候、委細_者
期後処之時候、恐々謹言

安倍四郎五郎

霜月十五日 正之書印

村川市兵衛殿

参

3
9

㇏安倍四郎五郎様 酒井讃岐守

人々御中

忠勝

昨日_者伯耆国町人大屋九右衛門
私宅へ参候付御使之指添へ右之
九右衛門儀竹嶋へ船を渡候、此頃
罷帰候、例公方様御目見仕候由
令得其意候、随_而貴殿儀炎天之
節毎日御普請場へ御出候儀
御太儀存事ニ候何も期面上候
節候、恐惶謹言

八月十五日

為歳暮之御祝義
過朔日之御状殊

4
1 (注 4 1 は横線で見消)

手掛五人一箱贈給
過分至候、御手前無
事御入候由目出珍重候
我等儀_茂無恙有之
事候、将又御紙面之
通四郎五郎可申
開候、来春竹嶋へ
渡船六月中_者
4
2 (注 4 2 は横線で見消)
可有御参勤旨万

慶其節可申承候
恐々謹言

大久保宮内少輔

十二月十七日 正朝書印

村川市兵衛様

(貼り紙)「和泉守様御書」

御返事

三通入候」

右之通御座候

「四郎五郎様御状
四通書入候」

「長谷川正悦様御状
壱通書入候」

4 3 (注 4 3は横線で見消)
一 台徳院様以来

御代々様

(貼り紙)「此前書計
書不申」

御目見之節於
御城御役人様方より御札之次第書
被為成御渡候、ケ様之御書付_茂余夥所持
仕候処右書頭之通紛失仕候尤相残候写如左
五月廿八日

一 如例月御札相済

4 4
参勤之御札
綿式百把金馬代 松平肥前守
綿百抱金馬代 松平主殿頭

蠟燭二箱金馬代 松平筑後守

一 上杓彈正大弼在着_{ニ付而}
以使者蠟燭五箱二種一荷
被差上之使者銀馬代を以
自分之御礼色部又四郎

4 5
終_而御次之間伺公之面々并
落縁_{ニ而}

伯耆国米子町人参上

箱肴 大屋九右衛門

右終_而入御

右之通御座候

一 大猷院様御代寛永十五年二月

4 6 (注 4 6 は横線で見消)

西之御丸御書院床之板御書棚之板

御用ニ付竹嶋梅檀可差上旨被為

仰付候之所首尾能上納之仕候、此外

御代々様_江

御上納奉相勤候節從御役人様方右

御請取書被成下候々様之類_茂余夥所持仕候

処右書頭之通紛朱仕候_七相殘候事如左

焼失仕候

4 7 (注 4 7 は横線で見消)

請取申御材木之事

一 式枚ハ 唐梅檀長_ハ丈四尺四寸 _{は、式尺壹寸}
あつ式尺壹歩

一 式本ハ 桐長六尺壹寸内 _{壹本ニ五尺五寸廻ニ五尺三}
_{ハ中而}り壹本ハ中_而寸廻

合四本

右之進上木請取申者也、如件

正保式年

酉九月廿日 長井清太夫 印形

中根七左衛門 印形

4 8 (注 4 8 は横線で見消)

美濃部与藤次 印形

伯耆国米子町

村川市兵衛殿

右之通御座候

一 嚴有院様御代明暦三年六月四日祖父村川市兵衛

4 9 (注 4 9 は横線で見消)

儀家督始_而参府仕候節於

江府被為遊

御尋候ニ付竹嶋渡海、尤例格之儀并

御代々様^江

御目見之節

御紋之時服拝領被為

仰付候次第委細御請書仕差上候条、右書付
之写如左

50 (注 50は横線で見消)

乍恐口上之覚

一 私共竹嶋^江渡海仕候儀^者

台徳院様御代元和四年五月

阿部四郎五郎様就御執持

松平新太郎様^江以

御奉書竹嶋渡海之儀被為

51 (注 51は横線で見消)

仰附右

御奉書私共頂戴仕罷在難有仕合奉存候事

一 竹嶋渡海之船^江

御紋之船印且道具蒙

御免今以左之通御座候、先年右船朝鮮国^江

漂着仕候節^茂

御紋之舟印相立候故朝鮮表^{ニ而茂別而}

御馳走^{ニ而}御座候由、且又私共義道中

52 (注 52は横線で見消)

御紋之指札蒙

御免難有仕合奉存候事

一 御目見之儀寺社御奉行様^江奉願候、尤

私共当御地^江罷下候儀八九年^{ニ而}一度参

府仕候并

御目見之度々

御紋之

御時服壹拝領仕難有仕合奉存候事

53 (53は横線で見消)

右之通御座候、以上

伯州米子町人

明暦三年酉六月日

村川市兵衛

右之通御座候

一 常憲院様御代寺社御奉行秋元撰津守様より

御使を以御口上書被成下候写如左

口上之覚

54

今度当御地^江被相越候付

昨日^者御入来殊竹嶋

丸千鮑一箱預持参怡悦之

至候為其如斯候、以上

秋元撰津守

使

五月廿日

常憲院様御代元録⁽⁷⁾⁽⁴⁾ 七年三月祖父大屋九右衛門儀

御目見之年番^ニ御座候处、尤幼少^ニ罷在候^ニ付

55

同苗大谷藤兵衛儀為代江府相詰、則三月廿八日為

参上之御礼

御目見被為

仰付難有仕合奉存上候、尤元録⁽⁷⁾⁽⁴⁾ 五年六年竹嶋^江

舟相渡候得共唐人罷在所務不仕帰帆仕候付

例格之通

献上之蛇無御座候間改^而干鯛一箱

献上仕候、且御役人様方^{江茂}箱肴差上申候

56

其刻為御挨拶以御使御口上書被成下候、数通

右書頭候通紛失仕候尤相残候写如左

口上之覚

昨日之干鯛一箱

預持参候、令祝着候

為其如斯候、以上

秋元但馬守

使

57

三月廿九日

昨日^者干鯛一箱

持参令祝着候

為其以使申候、以上

加藤佐渡守

三月廿九日 使

右之通御座候

58

一

元和以来竹嶋^江渡海之船節々朝鮮国^江流

着仕候条、尤寛文午歳大屋九右衛門仕出船数

之内壹艘廿壹人乗帰帆之節、朝鮮^江被吹流

候所舟^者破損致候得共人数^者船頭水主共

無別条陸^江上り候^而、則朝鮮人出合介抱仕

其許之於奉行所吟味有之、其上逗留中

馳走日本^江帰帆之節国王より船頭水主へ

貼別目錄等之次第其砌對州之役人中へ

59

船頭水主委細書付出候控之写如左

伯耆国漂流人口書之覚

一

伯耆国米子^与申所之柑川市^{東衛}大谷甚吉仕出之

拾三端帆之船二艘人数五拾人乘当年午ノ二月

三日本国出船、同十三日隱岐国^江着船、四月六日彼ノ

所出帆、同八日竹嶋へ着船仕候事

船主柑川市^{東衛}大谷甚吉儀

60

一

御朱印頂戴仕居每歳竹嶋^江舟差渡相整候

物^者、^ミちの魚の皮同油串鮑^ニ而御座候、則

御朱印之写所持仕罷在候事

一

国本よりハ二艘之船^ニ而竹嶋^江渡於此所拾五端帆之

船壹艘作り我々廿壹人^者則拾五端帆^ニ乗三艘^ニ而

七月三日彼嶋帰帆之節遭難風二艘之儀^者何国^江漂

着仕候^茂不存候、拙者共乗船者洋中^ニ二夜漂

罷在、同五日之夜四ツ時分朝鮮国之内ちゃんキリ

61

1

灘と申所へ致漂着於浦口舟破損仕夜ル之

八ツ時分陸へ游上り居申候処、朝鮮人出合我々

手引申ちやんキリへ列参、宿老軒ニ三人宛召置

候而粥を振廻申候、此所ニ五日逗留仕候家数廿軒程

相見へ申候、其内ニ地頭被罷越切麦酒肴等振廻被申候

其後ちやんキリの城下江被引越五日逗留いたし候

其間両度酒肴有振廻被申候事

七月十四日ちやんキリを罷立道中せそんと申所之

6
2

地頭より酒肴振廻被申候事

うるさんと申所へ三日逗留仕候、此外道中ニ泊り

申候得共所之名覚不申候事

同廿一日とくねき江参着仕候、其日菓子酒肴

振廻被申候、其外逗留中三度酒肴振廻御座候

此所ニ逗留七月廿一日より十月三日迄罷在候、同四日

とくねきよりさすとふと申所へ罷越候、此時茂とく

ねき地頭より酒肴菓子振廻被申候事

6
3

七月六日より十月四日迄ハ朝鮮国より扶持方塩噌

薪等迄賜之御馳走ニ而御座候事

十月四日さすとふへ罷越候、則朝鮮江被差置候

役人中出合我等在所并宗門手形所持之道具

等之儀迄念頃ニ改有之、其所より舟ニ乗役人中付

十月七日對州之内わにの浦と申所へ着船いたし

昨九日ニ爰許へ罷着候事

人数廿老入宗門并歳付

6
4

上乘

一 浄土宗 旦那寺 伯耆国 大蓮寺 歳三十五 二郎兵衛

船頭

一 禅宗 旦那寺 同国 安国寺 同三十六 太郎右衛門

鉄砲打

一 同宗 旦那寺 同国 福嚴院 同四十 久兵衛

同役

一 同宗 旦那寺 同国 西福寺 同廿五 又右衛門

かぢ

一	浄土宗	旦那寺	同国	大蓮寺	同四十二	与三右衛門
一	同宗	旦那寺	同国	浄土寺	同三十七	あわひつき 太郎右衛門
一	同宗	旦那寺	同国	浄土寺	同三十六	同役 小作
一	同宗	旦那寺	同国	同寺	同三十二	五郎作
6 5						舟大工
一	真宗	旦那寺	伯耆国	万福寺	同三十八	長兵衛
一	禅宗	旦那寺	同国	法増寺	同廿九	楫取 傳助
一	同宗	旦那寺	同国	安國寺	同廿二	桶大工 久右衛門
一	真宗	旦那寺	同国	万福寺	同三十九	水夫 作兵衛
一	法花宗	旦那寺	同国	本教寺	同廿二	同 十兵衛
一	禅宗	旦那寺	同国	万泉寺	同廿九	同 作助
一	同宗	旦那寺	同国	同寺	同五十四	同 次郎左衛門
6 6						
一	真宗	旦那寺	伯耆国	万福寺	同廿七	治兵衛
一	禅宗	旦那寺	同国	法増寺	同四十四	同 角助
一	同宗	旦那寺	同国	万泉寺	同三十二	同 甚七
一	同宗	旦那寺	同国	同寺	同廿九	同 九郎助
一	同宗	旦那寺	同国	浄土寺	同四十	同 又助
一	同宗	旦那寺	同国	同寺	同三十	同 彦八

右我々宗門寺請之儀本国出船之刻大谷甚吉

手前ニ留置宗門寺請を別紙ニ相認舟奉行へ遣往来
切手出シ申候を請取出帆致候、然處及船破損候刻右之

67

往来切手箱共ニ捨り申候故所持不致候、尤船ニ積候
荷物舟道具之儀破損之節捨り不申候を朝鮮人
被入念取揚給候品々改御座候、以上

十月十日

右之趣船頭次郎兵衛書付差出候覺書如件

明ル未ノ

寛文七年

大谷九右衛門

二月廿九日

右之表未ノ二月廿九日書之写

68

右ニ書頭ノ通朝鮮国逗留中從国王船頭水江

貼別之目錄式通如左

漂倭處別贈

豎紙

頭倭一人

薄様之厚キ

白米式斗

様成ル紙

白紙式卷

從倭二十一名

白米各壹斗

白紙各壹卷

朱印

巡察使(花押) 丙午九月日

69

漂倭二十二入

右同断

白米拾肆石拾斗

大口魚壹百拾尾

清酒式拾式瓶

東苺式拾式塊

生鮮式拾式束

甘醬陸斗陸升

際

丙午十月日

右同断

70

右之通御座候

一 竹嶋^江渡海仕候道法之内隠岐国嶋後福浦より

七八拾里程渡候^而松嶋と申小嶋御座候付此嶋へ
渡海仕度旨

台徳院様御代御願申上候所願之通被為

仰付竹嶋同事^ニ年々渡海仕候、尤每度奉差上候

71

竹嶋渡海之絵図^ニ書頭候御事

一 台徳院様以来

御巡見被為成御通候節伯耆国米子御止宿之

砌村川市兵衛大谷九右衛門被

召出竹嶋渡海之儀、尤

台徳院様以来私共先祖より

御目見被為

仰付候次第被成御尋候付委細言上、則書附

72

差上申候御事

一 元録^(イイ) 五年壬申歳如例年竹嶋^江渡海仕候处、唐人

罷在依之帰帆仕候、夫より六年七年八年迄

御差図を以渡海仕候处、年々唐人相増罷在候付

所務不仕帰帆之節其次第委細御届ケ申上候

然处元録^(イイ) 九丙子年正月廿八日

松平伯耆守様^江以

73

御奉書右竹嶋渡海制禁之旨被為

仰出候趣被為仰渡其段奉畏候、尤右

御奉書之写如左

先年松平新太郎

因州伯州領知之節

相同之伯州米子之

町人村川市兵衛大谷

74

甚吉竹嶋^{江渡海}

至于今雖致漁候

向後竹嶋^{江渡海}之

儀制禁可申付旨

被仰付候間可被存

其趣候、恐々謹言

土屋相模守

在判

正月廿八日

戸田山城守

75

阿部豊後守

在判

大久保加賀守

在判

松平伯耆守殿

右之通御座候

76

一 竹嶋渡海制禁被為

仰出候付家業を失渡世難仕、依之祖父村川市兵衛

儀元禄十丑八月江戸へ罷下、同九月寺社

御奉行所井上大和守様迄乍恐御歎之

願書差上暫時江戸相詰罷在候处、病氣^ニ付

在所^江罷帰候事

一 有徳院様御代^(見せ消し)

一 当御代様御休享保九年辰四月竹嶋渡海之儀

77

被為遊御尋其旨於鳥府御言付を以

被為仰渡候趣如左

一 先年竹嶋^江伯耆国より相渡候者唐人出合

追払候、其節唐人何人程嶋_ニ居有之候哉
弓鉄砲等持居申候哉、年号月日共委細書付
可差上候事

一 其以後又罷越候處其節も唐人出合追払候
其節_者唐人兩人召捕罷越候、其節之首尾并
年号月日相調可差上事

7
8

一 右之嶋_ニ有之候品委細書附可差上事

一 竹嶋東西広サ大概之絵図仕可差上事

一 右嶋_ニミち有之候哉、其外獸類有之由相聞候
此段委細書付可差上事

一 右嶋_ニ竹木_者如何様成もの有之候哉、御書付
可差上事

一 唐人相渡り候節と伯耆国より相渡候時節
違候様相聞候、此段も可申上事

一 伯耆之浦より竹嶋迄渡海之数里ハ如何様有之

7
9

候哉、竹嶋より朝鮮_{江者}如何程可有之候哉、此段

書付可差上事

右之通

御尋_ニ付御請書差上候所之写如左

第御一箇條之御請

一

元録₍₄₄₎ 五壬申年二月十一日米子より出船、隱岐国

嶋後福浦_{江着岸}、三月四日福浦より出船、同廿六日

朝五ツ時竹嶋之内いか嶋と申所_{江着船}、様子見申
候得_者鮑大分取上ケ申様相見へ不審奉存候故

8
0

同廿七日朝濱田浦_{江参候}内唐船式艘相見へ申候

内老艘_者すへ船老艘ハ浮船_{ニ而}居申候唐人三十人

計見へ申候、右之浮舟乗り此方之船より八九間程沖
を通り大坂浦と申所へ廻り申候、右之内兩人陸_ニ

残り居申候処_ニ又小船_ニ乗り参候故此方之船_ニ乘

申候_而何国之者と相尋候得_者耆人ハ通辞にて

朝鮮国かわてんかわくの者と申候付、此嶋_者

日本之地_{ニ而}從

8
1

御公方様代々拝領仕、毎年渡海いたし候嶋ニ而候所ニ
何とて其方共参候哉与相尋候得者此嶋より北ニ当り
嶋有之、三年ニ老度宛国主之用ニ而匏取ニ参候
国元ハ二月廿一日類船拾老艘ニ而出船いたし、難風ニ
逢五艘ニ而已上五拾三人乗此嶋へ三月廿三日流
着、此嶋之様子見申候得者匏有之候間致逗留
匏取上ケ候由申候左候ハ、此嶋を早々被立候様
申候得者舟少損候間造作仕調次第出船可仕
候間其許之御船是へ御すへ可被成与申候得とも
此方共船者すへ不申、先人計陸へ上り見分仕候処
兼而此方より拵置候諸道具并漁船八艘見へ不申

8
2

付通辞へ段々吟味仕候得者浦々へ廻遣イ候由
申候、先此方之船すへ申様ニと申候得共唐人者
大勢此方者纔廿老人ニ而御座候ニ付無心元奉存
竹嶋より三月廿七日之七ツ時出船仕申候、然共何ニ而
茂印無御座而ハ如何と奉存唐人之拵置候串
匏少笠老ツ網頭巾老ツ味噌かうし老玉取之
致出船、四月朔日石州濱田浦へ着船仕夫より
四日雲州雲津浦迄参翌五日七ツ時米子へ

8
3

帰帆仕候、右之趣元録(44)五壬申年四月六日竹嶋
渡海之船頭水主共口上申候、右唐人弓
鉄砲所持不仕候哉と被為遊

御尋候、其節吟味仕候処而武具之類所持不仕候
第御二箇條之御請

一

元禄六癸酉年二月下旬米子出船、雲州雲津
三月初雲津より出船、隱岐国嶋後福浦へ着致
四月十六日四ツ時福浦を出船、同十七日八ツ時竹嶋江
参着仕候処唐人大勢居申候付陸江
上り老人吟味仕候処不埒之申様付頭と相見へ申候

8
4

者老人下方之者老人已上兩人召連竹嶋ヲ
同十八日八ツ時出船仕、同廿七日罷戻り候而早速右之

段鳥取^江御届申候処御東被成御窺右両人
之唐人長崎^江被遣候其後戌亥兩年渡海仕
候得共唐人大勢居申候付無所務^{ニ而}帰帆仕候

第御三箇條之御請

一 竹嶋有之品々委細書付差上候様被為
仰出候付古来渡海之船頭水主共へ相尋見知候
物迄品々書留置候付此度左之通書付差上申候

85

木竹之類

一	五葉松	一	梅檀 ^{お色葉実へんな し白きもの御座候}	一	たたら
一	きわだ	一	椿	一	とが
一	槻	一	竹	一	まの竹
一	柊 ^{葉もはちのこと く木の色あかし}	一	桐	一	かび

草之類

一	にんしん	一	にんにく	一	ふき
一	めうが	一	うど	一	ゆり
一	こほう	一	あをきは	一	ぐみ

86

一	いちご	一	いたどり
一	辰砂岩ろくせうのやうの物御座候得共漁迄を		
一	心懸申候付此段 ^者 睨と知不申候		
一	彼地に大河三筋御座候、水主共右川 ^{ニ而} 手水		
一	遣申候節山風 ^ニ 何方共なく宜香仕候其外 ^ニ も		
一	珍敷物 ^茂 可有御座奉存候得共深山 ^{ニ而} 山之		
一	中へ ^者 ふかく参かたく候由申候		

第御四箇條之御請

一 竹嶋東西広サ之儀竹木重り相知不申由并

87

嶋廻り^者凡拾里余も可有御座哉^与水主共
申候、絵図之儀^者別紙^ニ仕差上申候
第御五箇條之御請

一 竹嶋^ニミちの魚之外獣類有之哉と
御尋被為遊候、左之通書附差上申候
鳥獣之類

一 ミち魚 一 ねこ 一 鼬
一 山雀 一 雀 一 あな鳥
一 鳩 一 ひよ鳥 一 かはらひは

8
8

一 四十雀 一 かもめ 一 鴉
一 なちこ 一 つばめ 一 鷺
一 くまたか 其外鷹類

第御六箇條之御請

一 唐人相渡候時節と伯耆国より相渡候時節と
違候哉と被為遊

御尋候、古来此方より^者二三月ニ渡海七月上旬
帰帆仕候、年々渡海之節吟味仕見申候処、此方より
彼嶋小屋之内囲置候諸道具漁船等少^茂

8
9

取散候様子相見不申候間、唐人共前々渡海

仕候儀^者無御座^与奉存候、但元録^(くろ)五壬申歳三月

初^而渡海仕候様ニ奉存候、然共唐人渡海之
時節^者不奉存候

第御七箇條之御請

一 伯耆国より竹嶋迄渡海之数里并竹嶋より朝鮮へ
渡海之数里被為遊

御尋候、米子より竹嶋^{江者}百四五拾里、竹嶋より朝鮮へ^者
四拾里程可有御座之様水主共申候、濱目三ツ柳
村より隠岐国嶋後迄三拾五六里御座候、竹嶋より

9
0

朝鮮山を見渡候所ニ少遠く相見候様四拾里程と
申上候

右之通此度被為遊
御尋候付、古来書留置候趣相殘候水主共へ相尋
書付差上申候、以上

享保九丙辰年 大谷九右衛門
閏四月三日 伯州米子町人
右之通ニ御座候 村川市兵衛

9
1

一 右竹嶋東西之広サ大概之絵図仕差上候写左之

通御座候、委細之儀^者別ニ大絵図所持仕罷

在候、尤竹嶋之儀磯竹嶋^与申候得共私共古来より

御公辺^江指出候所之書附^ニ者竹嶋と唱来候

且絵図之通濱田浦着船之所より竹か浦迄

壱里余^者竹藪^{ニ而}御座候、ケ様之儀^ニ付竹嶋

と唱候哉^与奉存候

竹嶋大概之絵図如左

9
2

朝鮮国

北

まの嶋 まの嶋

一、竹嶋大廻り拾里余竹嶋ヨリ

北浦 大坂浦

朝鮮^江四十里計り伯耆

国米子より竹嶋^江百五十里

柳浦

竹嶋

古大坂浦

いか嶋

濱田浦入津所

松嶋 松嶋

北国浦

此間四十間計り

是より濱田浦四十里斗り

竹ヶ浦

西

東

唐船ヶ崎

隠州嶋後

福浦

是ヨリ松嶋へ七十里計り

隠州焼火山

隠岐嶋前三嶋

中ノ嶋ヨリ福浦へ八里

隠州千振

隠州中嶋

雲津ヨリ千振へ十八里

雲州雲津

雲州三保関

南

9
3

右之通御座候

一 御尋ニ付右御請書并絵図相添差上候所
再応之

御尋之趣如左

一 米子より出雲国雲津浦出船之所迄海路陸路
何程有之候哉、但海上迄致往来候哉

一 元録(44) 五壬申歲朝鮮人ニ出合候節米子より

9
4

渡海之船頭水主其外人数何程并船何程

ニ而 罷越候哉

一 翌六年癸酉歲罷越候節舟数并人数

何程ニ而 致乗船候哉

一 渡海之節前々弓鉄砲致用意罷越
候哉

一 同七甲戌歲同八乙亥歲兩年罷越候節
人数ニ舟数も同前ニ而 有之候哉

一 朝鮮人ニ出合候翌酉歲罷越候節竹嶋ニ朝鮮人

9
5

大概何十人程有之候哉

右之通再応之

御尋ニ付御請書差上候趣如左

乍恐口上之覺

一 伯耆国米子より雲州雲津浦迄之道法

米子より濱ノ目境村迄陸四里半出雲国

9
6

宇井浦江五丁計之船渡り御座候、夫より同国

三保関江弍里、三保関より雲津江者陸路

壱里都合七里半五丁

一 米子より雲津迄舟路九里

一 元録(44) 五壬申年村川市兵衛大谷九右衛門竹嶋江

相渡申候舟弍百石計積申候、船壱艘遣申候

船頭水主弍拾壱人鳥銃五挺鎗三筋遣申候

尤其節居申候唐人三拾人計見及申候

一 元禄六癸酉年之渡海船壱艘船頭水主

9
7

式拾壹人鳥銃五挺鎗三筋持参仕候、其節
之唐人数大勢^与計控書^ニ御座候、前之船
式艘遣候節^者鳥銃拾挺計遣申候、弓ハ
遣シ候儀無御座候

一

戌亥両年渡海仕候節船頭水主船数

鉄砲数鎗等同前^ニ遣申候

一

竹嶋^ニ居申候朝鮮人壹年々々増亥歳杯ハ所々^ニ

五拾人三拾人程宛大勢罷在候由^ニ御座候、以上

9
8

伯州米子町人

大谷九右衛門

享保九年辰五月十日

伯州米子町人

村川市兵衛

右之通御座候

一

再応之

御尋^ニ付右御請書一通差上候、以後重^而

9
9

御尋之趣如左

一

竹嶋^江致渡海候船頭水主存候故^{ニ而}罷在

米子^ニ住宅之者候哉

右之通

御尋^ニ付御請書奉差上候趣如左

乍恐口上之覚

一

米子灘町弥三兵衛と申者七十歳^ニ罷成申候

四拾年以前^ニ竹嶋^江一度渡海仕候、此度鳥取^江

召連参候者^ニ御座候

1
0
0

一

米子同町長右衛門^与申者五十三歳^ニ罷成申候

私共鳥取^江参候時分ハ舟^{ニ而}罷出、近頃罷戻り

申候付様子相尋申候得共元禄四年より同六年

迄三年之間渡海仕候様^ニ申候、私共儀右之者

十九歳か廿歳計^{ニ而}一度渡海仕候様覺申候故

右之通申上候处、此度直^ニ相尋候得^者唐人渡海

之節両年共参申候由御座候

一 米子片原町長兵衛と申者六拾三歳ニ罷成申候
此者前之四月中旬舟ニ而罷出未罷帰不申候

101

故委細相知不申候

一 米子立町源右衛門と申者八拾四歳ニ罷成申候
三拾七年以前四度渡海仕候由申候

一 米子灘町吉兵衛と申者七拾九歳ニ罷成申候

四拾三年以前迄十度渡海仕候由申候、右兩人ハ
極老行歩不叶候故右鳥取へ召連不申候

一 米子片原町太兵衛と申者七拾五歳ニ罷成申候

四拾六年以前ニ兩度渡海仕候由申候、右兩人之儀者
私共急ニ鳥取へ罷越候付相知不申候処、此度

102

御尋之上ニ而申出候間書付差上申候、以上

伯耆国米子町人

村川市兵衛

享保九年辰六月廿三日

大谷九右衛門

右之通御座候

103

一 右享保九年辰四月竹嶋渡海之次第從

江戸御尋之節、猶又從

鳥府御尋之條々、則以御書付被為

仰出候趣如左

申渡之目錄出来之節

別紙ニ認之品左之通

一 從三拾三年三拾壹年跡迄

遣候船頭耆人_茂存候故

104

不仕候者其通ヲ書印候事

一 此度召連候耆人_茂三拾

三年より已前之水主ニ有之候

者其段も書印候事

一 唐人竹嶋_江參居候節家宅

者拵不申兩人方之船方共之

小屋掛ケ残置、夫ニ居申候者其

通書印候事

一 件之節已前唐人竹嶋_{ニ而}

105

見不申候ハ、其通書印候事

一 元祖之名只今之市兵衛

迄何代

一 九右衛門同事

一 竹嶋御免被遊渡海初り

年号等

一 右之儀御執持被遣候

御簾本衆御名并御執持

被下候由緒

106

一 新太郎様_江御老中より

御奉書之写

一 御紋之風見御免被遊、品

一 兩人先祖江戸_江御目見ヘ

罷下候初年号

享保九甲辰ノ年四月日

右之通御尋_ニ付御請書一通

差上候处、猶以祖父村川市兵衛儀

出府被仰附候趣如左

107

覚

一 村川市兵衛儀御用之事候間早々当地_江

可罷越候

一 市兵衛当地_江罷越刻新太郎様御代

御老中御奉書可致持参候

一 大殿様御代荒尾内匠_江從宗對馬守殿

之御状可致持参候

一 其外古来より竹嶋渡海之儀_ニ付覚書可有

之候間不殘持参可申候

一 市兵衛なおほヘ_ニ有之候_者存知候者召連

108

可罷越候、已上

六月日

右之通^ニ御座候、就夫祖父村川市兵衛儀

乍恐出府仕御尋之次第委細御請

申上候条、尤右持参仕候所之從

対馬守様^江被為預

御挨拶候御書之写如左

109

尚以庄五郎殿御在江

戸之由承候故江戸^ニ此等

之通直申達候朝鮮^{ニ而者}

馳走之様子天波弥三右衛門

定^而可申入候

一 書令啓候然^者

庄五郎殿御領分

伯州之内米子

110

村川市兵衛代官

弥三右衛門竹嶋渡

海仕用所相仕廻

六月之末帰国之

刻被放風朝鮮国

之内府山之浦漂

111

流仕候处、日本人

故於朝鮮表別^而

念を入此方へ被相

送候条、彼弥三右衛門

与七郎^ニ我等者相

添送遣候委細

112

沼川次兵衛可申入候

間不能一二候恐々

謹言

宗對馬守

書印

八月廿六日

荒尾内匠殿

御宿所

113 (注 113は横線で見消)

右之通御座候

一 右祖父村川市兵衛儀江戸^江始^而罷下候

節元禄二巳六月於

御国屋敷従

志摩様

御公辺之儀万々蒙御差図候趣、尤

但馬様より米子御役所^江被仰達候御書之

写并右祖父村川市兵衛儀江府より罷帰候節

114 (注 114は横線で見消)

右為御札擎愚札候之处、御披露之為

御返翰従

但馬様御書被成下候類、尤従

外様或^者年始御祝書差上候節、右御披露之

為御返翰御書被成下候所相遺候写如左

一筆申入候然^者村川

市兵衛倅先頃江戸へ参

115 (注 115は横線で見消)

着申候得共相煩申由^{二而}

去ル六日荒志摩長屋^江

参万々御差図次第^二

可仕^与申^二付御聞役衆

被申談江戸^{二而}之首尾

具^二被申含候

殿様^江去ル七日首尾能

御目見仕候村川市兵衛倅^与

116 (注 116は横線で見消)

在之候^而ハケ様之者共父子

公方様^江御目見難調旨

此度

公方様^江之御目見若調不

申儀も可有之と御聞役共

申、就夫何^茂被致相談親
市兵衛儀^者年罷寄最早

江戸へ罷越儀難成^ニ付此度
忤罷越候、則名をも市兵衛^与

117 (注 117は横線で見消)
申候^与申込候^者

御目見調安可有之^与志摩
被存名改親之名^ニ被致候由

志摩より我等方^江右之趣
被申越候、此旨可被得其旨候

一 親市兵衛儀早々名を
一 いヶ様共替申様^ニ可申渡候
最早此已後^者親市兵衛

江戸^江不罷越忤市兵衛迄
118 (注 118は横線で見消)
参候様^ニ親市兵衛^江可申渡候

一 村川儀江戸仕廻候ハ、直^ニ其元へ
帰候様^ニと当春各へ申渡候得共

江戸より直^ニ当地^江罷越首尾
能候^而直^ニ当地^江参候様^ニと

江戸^江之便^ニ村川方^江
家来方より申遣候、恐々

謹言
119 (注 119は横線で見消)
但馬

六月廿一日 書印

柴山甚内殿
鷺見佐左衛門殿

120 (注 120は横線で見消)
白井七左衛門所迄飛札

殊以串海鼠一折到
来心入之段欣然候
公方様^江首尾能

御目見相済候由一段之
仕合候、猶七左衛門

可述候也

但馬

1 2 1 (注 1 2 1 は横線で見消)

九月十二日 書印

村川市兵衛とのへ

飛脚殊雉子番

到来紙面之趣令

委聞候、入念段満足

申候、此度之願首尾能

相調一段之事ニ候、謹言

1 2 2 (注 1 2 2 は横線で見消)

荒修理

書印

十二月十五日

村川市兵衛殿

修理年賀為祝詞

其地從町中飛脚

殊肴一種到来

令満足候、遠路

1 2 3 (注 1 2 3 は横線で見消)

被入念段一入候猶

白井七左衛門より可述候

謹言

玄番

正月晦日 書印

村川市兵衛殿

大谷藤兵衛殿

宮本三郎右衛門殿

1 2 4 (注 1 2 4 は横線で見消)

為年甫之嘉儀

家頼所迄来札殊

一種到来欣然之至候
弥無異加年之旨
一段之事_ニ候、謹言

上総

正月三日 書印

村川市兵衛殿

125 (注 125は横線で見消)

右之通御座候

附

當時天明三卯正月年始御祝書
差上候_ニ付、今以旧格之通從
平右衛門様右年始御祝書為
御返翰私_江御書被成下候、右
御書之写如左

家来方迄来札

欣然_ニ候弥無異

加年一段事_ニ候、謹言

126 (注 126は横線で見消)

平右衛門

二月朔日 書印

村川市兵衛殿

書状令披見候如来意

新正之慶賀申籠愈

御無異加年旨珍重存候

平右衛門殿堅固被致

超歳候為年甫之嘉儀

127 (注 127は横線で見消)

紙面之趣遂披露候処

被入念候儀、則被及書中候

恐々謹言

林新兵衛

二月朔日 書印

砂川源五右衛門

書印

村川市兵衛殿

右之通御座候

128

一 御入国已来尤私共祖父之者迄例歳竹嶋
渡海仕候節

鳥府御用之趣以御注文被

仰付候所之御書付并御用之品々被

召上候節御小目録被成御渡候

々様之類も余夥所持仕候処及紛失申候

尤相残候御書附之写如左

129

覚

一 上々串鮑 五千貝

一 上串鮑 三千貝

一 中串鮑 貳千五百貝

一 上々丸干 三千六百貝

一 上丸干鮑 貳百貝

一 鮑腸塩辛 壹斗五升

130

一 木耳 貳斗

右之品々

殿様御用也

牧野清左衛門

正月十一日

村川市兵衛殿

131

竹嶋串鮑目録

一 上々串鮑 拾五連

一 上串鮑 拾五連

一 上丸干鮑 三百貝

一 中串鮑 七拾連

一 下串鮑 三百貝

一 腸漬鮑 壹斗

一 腸塩辛 壺斗
一 木くらけ 五升

1
3
2

右者

大殿様御用候、以上

牧野清左衛門

正月廿九日

村川市兵衛殿

1
3
3

覚

一 中々串鮑 三拾連
一 中 丸干 五百貝
一 下 丸干 貳百貝
一 腸漬鮑 百貝
一 腸塩辛 八升

右之通

壺州様御用ニ候

1
3
4

牧野清左衛門

正月廿五日

村川市兵衛殿

覚

一 上々串鮑貳拾三連 内 五連市兵衛江戸土産ニ被遣候
八連ハ此方へ被召上候
一 上ノ串鮑百連 内 二十五連ハ市兵衛へ被遣候
七十五連ハ此方へ被召上候
一 中ノ串鮑百拾連 内 三十連ハ市兵衛へ被遣候
八十連ハ此方へ被召上候
一 下ノ串鮑百拾連 内 十二連ハ市兵衛へ被遣候九
十八連ハ此方へ被召上候

1
3
5

一 下々同百三拾八連ハ不残市兵衛へ被遣候
右串鮑都合四百八拾壺連

内 上々上中下合二百七拾壺連ハ此方へ被召上候
上々上中下々合貳百拾連ハ市兵衛へ被遣候

一 桐ノ木拾本之内 太キ能木三本を召上候 残
候七本ハ市兵衛へ被遣候

一 油木海月 此方御用無之候

一 上々串鮑直段壺連ニ付 丁銀七匁宛

一 上同 直段壺連ニ付 同五匁九分宛

一 中同 直段壺連ニ付 同四匁貳分宛

一 下同 直段壺連_ニ付 同三匁壹分宛
136

右之直段_ニ被召上候間、左様可被仰渡候
一 桐ノ木 直段付無御座候、拾本之内太キ能木
三本直段可被仰下候、以上

寛文四年六月十八日

山住源右衛門

印形

宮田吉左衛門

印形

大脇太左衛門殿

坂川文左衛門殿

金万八右衛門殿

137 (注 137は横線で見消)

右之通御座候

一 右竹嶋渡海御禁制之旨、元録_(マ)九年子ノ

八月於鳥府被仰渡翌元録_(マ)十年

丑八月祖父村川市兵衛儀江戸_{江罷下り}

竹嶋渡海御禁制之趣御請申上候_ニ付則

御公儀_江指出候所之書附并

御国屋敷_江御歎之願書差出候、右兩度之控

相残之写如左

138 (注 138は横線で見消)

乍恐口上之覚

一 去年子之歳八月上旬従

松平伯耆守殿被仰渡候此度以

御奉書竹嶋渡海之儀向後御制禁被仰付候条

其通相守可申之旨御座候其段奉畏候、以上

伯州米子町人

村川市兵衛

元禄₊元年丑九月日

乍恐口上之覚

一 私義先祖より竹嶋渡海之所務を以渡世仕候処

139 (注 139は横線で見消)

去秋竹嶋渡海之制禁被為仰付、当時

渡世之経営難相成迷惑至極奉存候、大谷九右衛門
世忤^者幼少^ニ罷在候故私義此度御当地^江
罷越何とそ殿様御威光を以渡世之願も
仕前々之通御目見奉願度奉存候、恐多
奉存候得共以御慈悲右之願御取上ケ被為
下候ハ、難有可奉存候、依之右之段奉願候、以上
村川市兵衛

元禄十年丑九月廿一日

140

吉田平馬様

小谷伊兵衛様

右之通御座候、尤右享保九年閏四月

鳥府^江御尋之條々御請書尅通差上候

写如左

乍恐口上之覺

一 三拾三年より三拾壱年跡迄竹嶋^江渡海之

船頭水主存命^{ニ而}居不申候、雲州并隱岐国より

141

過半召抱申候、右之所之者存命^{ニ而}罷在候哉、此段

不奉存候

一 三拾三年已前竹嶋^江渡海仕只今相残居申候

者五人御座候内式人^者廻船^{ニ而}罷出宿^ニ居不申候

残三人之内式人^者八十余^ニ罷成申候、此度召連

申候七十式才^ニ罷成申候

一 此度召連候弥三兵衛と申水主ハ三拾三年より已前

渡海仕候者^ニ御座候

一 唐人竹嶋^江参居申候節自分小屋拵申候哉

と被成

142

御尋候、自分拵申候様子^{ニ者}相見へ不申候、毎年

此方より拵候小屋^ニ居申候由水主共申候

一 三拾三年以前竹嶋^{ニ而}唐人見申候哉と被為遊

御尋候、元和年中以後唐人見不申候由其節

申上候

一 私共先祖何代渡海仕候哉と被遊

御尋候村川市兵衛儀三代已前より渡海仕名^茂

三代共_ニ市兵衛_与申候

一 大谷九右衛門儀唯今迄四代竹嶋渡海

143

御免之節_者甚吉_与申候後三代ヲ九右衛門と申候

一 竹嶋渡海被為遊

御免候年号

御目見仕候年号并其節御執持被遣候

御簾本衆御名之儀并御執持被下候

御由緒之儀被為遊

御尋候元来村川市兵衛先祖之儀_者乍恐

權現様御代天正九年四月於撰州表聊

御奉公筋之儀共御座候、其後中国_江罷下伯州

144

之内_ニ住居仕候処

新太郎様因幡伯耆被為遊御領知候節

元和年中御仕置之為上使阿部四郎五郎様

御越之刻私共先祖之者共隠州之海上竹嶋

_与申孤嶋_江渡海仕候段御訴詔申上翌年

江戸表_江罷下り候所、右

御由緒之儀共御詮儀之上

新太郎様_江以御奉書竹嶋渡海之儀

被為仰附自夫兩人隔年_ニ渡海仕候

145

尤八九年之内老入宛罷越

公方様_江御目見申上候、尤始_而御目見

申上候年号月日相知不申候

一 御紋之風見之儀代々蒙御免候、是又

御免之品合相知不申候

一 元録₍₄₄₎ 十年丑八月村川市兵衛儀江戸_江罷越

殿様御威光を以竹嶋渡海之儀相歎候得共

嶋之儀_者相調不申候由_ニ付大勢水主共難義仕候

必至と取続不申、其上病氣_ニ付同十六

146

末年三月於

御国屋敷御暇願在所_江罷帰候、以上

享保九甲辰年閏四月三日

村川市兵衛

大谷九右衛門

右之通御座候

147

一 右書頭候通私共祖父之者儀

御公儀^江御訴詔之節尤祖父大谷九右衛門儀

参府仕候条、自分日記之写左之通^ニ御座候、尤

御公儀之御請披而已拔書仕候写^{ニ而}御座候

委^者是又別^ニ書附共所持仕罷在候

御公儀^江御訴詔之御請自分日記之写如左

148

一 御公儀^江差出候所之願書老通添書式通并

由緒書一冊元文五年申四月八日從

太守様御公儀^江御達之儀河村彦十郎様

被成御執計、則私儀寺社御奉行所

牧野越中守様^江御差出被成候事

一 越中守様御内寺社方御下役田中小右衛門様

荒木伊左衛門様次藤文左衛門様御三人内小右衛門様

御手^ニ付申候、乍恐私共奉差上候御願書御取上

御見分被成候上^{ニ而}段々御尋之趣御座候、随^而

149

御請委細^ニ申上候得^者御尋之儀相済申候御事

一 田中小右衛門様被仰聞候趣右之願書、則

越中守様御前^江差上可申候、御見分被為成候

上^{ニ而}追^而可被召出候間得其意罷帰候様^ニと被

仰候^而奉畏被帰候事

一 御国屋敷^江参上仕、右之趣委細御役人様方^江

御注進奉申上候事

一 申四月十七日牧野越中守様より御差紙ヲ以

明十八日四ツ時^ニ御屋敷^江私義罷出可申^与被為

150

仰付候、右御請書差上随^而十八日四ツ時^ニ参上仕相

窺罷在候得^者御奉行様方例月之通御寄合

被為成諸願之御吟味相始り私義被為召出相窺

居申候御奉行様方御座席之次第

一 牧野越中守様

- 一 本多紀伊守様
- 一 大岡越前守様
- 一 山名因幡守様

151

右之通御連座被為成候、御次之間御家々之御下役人衆中様方御連座被成候、其次之間^{ニ而}私共奉差上候御願書御役人様御持出被成候^而御奉行様方御前^{ニ而}御読上被成相修り申候其上^{ニ而}越中守様被為成御意候趣九右衛門竹嶋之支配を誰か致候哉^与御尋被為成候、随^而御請申上候竹嶋御支配之儀^者先祖之者共相蒙私共迄^茂支配仕来り候由申上候、則御奉行様方御一同^ニ夫^者重キ事哉と御意被為成候、次^ニ御尋

152

之趣竹嶋松嶋両嶋渡海禁制^ニ被為仰出候以後^者御領主より御憐愍を以渡世仕罷在候由願書^ニ書頭候段、然^者扶持杯請申候哉と御意被為成候、随^而申上候御扶持^{ニ而者}無御座御憐憫を以と書上候儀^者米子御城下^江諸方より持参候魚鳥問屋口錢之義、則私家禄^ニ被為仰附候并同役村川市兵衛儀^茂御城下^江入込候、塩問屋口錢之儀被為仰附候兩人共右之品蒙 御恩賜忝奉存候旨申上候、其上^{ニ而}

153

大岡越前守様御意被為成候趣九右衛門此添書^ニ書頭候通大坂御廻米船借り之儀并長崎貫物連中^ニ加り申度義弥御願申上候哉と之御尋^{ニ而}御座候、随^而御請申上候趣天道^ニ相叶御憐愍之筋相下り申候^者右之^ニ品乍恐御願申上度旨申上候、然^者又越前守様より被為成御意候趣九右衛門此^ニ品之儀長崎表之儀^者長崎御奉行所之作舞并御廻米之儀^者御勘定方懸り^ニ有之候得^者此方之作舞^{ニ而}無之候故

154

此義^者御勘定方^江相願申候^而可然筋^ニ候此方之了簡^ニ不及候^与被為仰出候得^者

越中守様紀伊守様御一同ニ被為遊御意候
趣イヤ／＼左様ニ而者無御座候、九右衛門御願之筋則

上江

御上江御伺申上候而其上御差図次第ニ而御勘定
方長崎御奉行所江茂差出可申与御詰開被為
遊候御事ニ御座候、又越前守様被為成御意候趣
九右衛門竹嶋者大嶋与絵図ニ而相見候、嶋山之風
景竹木草類禽獸之類日本之模様与者品

155

少々者相替申候哉与御尋ニ而御座候、随而申上候、私
先祖甚吉儀者自分ニ渡海仕候而其身竹嶋ニ而
病死仕候、其已後者嶋主共兩人共ニ自分渡海

模様者

不仕候故私義茂眼前之儀者不奉存候、旧記ニ書頭し
指上申候通御座候と御請申上候、其上ニ而越中守様
紀伊守様因幡守様より海馬之魚と申者如何様之
形恰好成ものニ候哉と御尋被為成候、随而申上候みちの
魚と申ハ頭鹿之ことく両之鰭長尤鰭先キニ爪
有之能陸ニも上り候、尾頭者矢簞ニ而一体ニ毛生ひ

156

毛色鹿の毛のことくニ而御座候、大ノ海馬与申候得者
馬程茂御座候条并嶋猫之儀皆黒色尾頭切レ
居申候由御請申上候此外辰砂岩緑青馬腦
杯之儀御尋被為成候随而御請申上候、然者
越前守様被為成御意候者九右衛門兎角此
御廻米并貫物之儀者其持口之役所江願
申可然候、此方共之作舞ニ而者尽ならさる事ニ候
と御申被為成候得者越中守様紀伊守様
より被為成御意候ハイヤ／＼兎角御上江御伺

157

申其上御差図次第ニ而御勘定所江九右衛門儀
差出し可申与被為成御意候得者御吟味之趣
相済申候、田中小右衛門様被仰候者最早九右衛門
すさり候へと之儀ニ御座候而奉畏罷立候御事

一 御国屋鋪^江参上仕今日於御役所奉差

上候御願書委細之御吟味相済、随^而乍恐

御請申上候儀御役人様方^江具^ニ御注進申上候御事

一 申四月廿四日牧野越中守様^江乍恐為

御窺参上仕候、其節田中小右衛門様荒木伊左右衛門様

158

次藤文左衛門様御出合被成披仰聞候御口上之趣ハ

其方御願之儀去ル十九日寺社御奉行所御仲間

合様方御登城之節、則御老中様へ御差上

御被見^ニ及申候間追^而御沙汰之趣相下可申

候^与之御事^ニ御座候^而其旨奉畏難有奉存上

候段申上罷帰申候御事

一 申ノ五月三日越中守様^江乍恐為御窺参上仕

候得共田中小右衛門様御出合被仰下御口上之趣其方

御願之儀未何之御沙汰相下り不申候、然^者其方より

159

被差上候由諸書^ニ被書頭候所之御老中様方

より為御礼其方旅宿へ御口上書并参勤御礼

被申上候節、於御城御書出之御書附等何角

取揃御奉行所様^江差上可被申候と被仰附候

随^而申上候、乍恐御願申上度奉存罷在候度^ニ

御役所様より御差図を以右之御書附奉差上可

及御見分之段難有奉存候^与御請申上罷帰候御事

一 申五月六日右被為仰附候御古書差上候目録

左之通

160

一 朝鮮国より竹嶋渡海之船頭水主^江被遣候御餞別

之目録式通

一 松平右衛門太夫様より私先祖之者出府仕候節

旅宿被下置候御使札忝通

一 秋元撰津守様より先祖之者出府仕候節旅宿へ

為御礼御口上書被下置候忝通

一 秋元但馬様より私出府之節旅宿へ為御礼被

下置候御口上書忝通

一 加藤佐渡守様より私出府之節為御礼旅宿^江

161

被下置候御口上書_江忝通

一 酒井讃岐守様より阿部四郎五郎様_江先祖之者
出府仕候_ニ付被為進候御手紙_江忝通

一 大久保宮内少輔様より私先祖之者_江被遣候御状
忝通

一 阿部四郎五郎様より私先祖之者_江被遣候御状
忝通

一 長谷川正悦様より私先祖之者出府仕候節為
御礼御手紙_江忝通

162

一 公方様_江御目見被為仰附候節參勤独
礼之次第御書出_江忝通

一 松平新太郎様_江御宛之御奉書之写_江忝通

一 松平伯耆守様_江之御奉書之写_江忝通

以上拾四通奉差上候

一 其以後_者五月七日_ニ御役所様_江乍恐為伺

參上仕候、然共重キ御事_ニ御座候得_者其年_茂

及暮_ニ申候御事

一 明ル西ノ二月十一日牧野越中守様より御差紙ヲ以

163

明十二日四ツ時御役所_江罷出可申_与被為仰附候
御請書指上、随_而十二日四ツ時御役所_江參上

仕相窺罷在候得_者田中小右衛門様御出合被成

尤去ル申ノ五月六日越中守様_江差上申候御古書

拾四通御持出被成御改以上拾四通、則私御返

被成候其上_ニ而_三被仰候右之古書去五月六日

差上被申候以後今日迄、則

殿様御居間御床之上_ニ被為置候、尤御仲間様

方御寄合被為成候節御取出被為成候_而御見分_ニ

164

及候_而是ハ由緒正敷事_与被為成御意候、右之

筋_ニ付此度御歎申上候儀、尤不便成事_与被為

思召候_而則書上申候忝通之内_江忝品_ニ而_茂

埒明遣し申度物と被為成御意候旨小右衛門様

被仰聞候、随_而難有仕合奉存候趣御請申上

候御事

一 小右衛門様被仰候^者右古書御覽被為成候^ニ付
御役所之御帳面繰ヲ被為仰付相改見
候所^ニ其方共先祖より御上^江御目見之次第

165

委細^ニ有之候由被為仰聞候御事

一 右之式^ニ付其方共御願書添状^ニ書付被差上候
条大坂御廻米船借之儀於御城御勘定
方御奉行様方^江寺社御仲間様より委細被仰達
置候、則当月水野對馬守様御当番^{ニ而}
候得^者右御寺社御役所^江被差上候通御願書
添書由緒書等相認候^而對馬守様御屋敷
^江罷出御取次役人衆迄其方可申上口上之覺
牧野越中守様より於御城先達^而

166

對馬守様^江御達被為置候願人伯州米子町人
大谷九右衛門儀御願書由緒書以上四通乍恐
差上申候ね寺社御奉行様より被為成御差出候故
乍恐参上仕候ね御憐愍を以願書之趣御沙汰
宜敷相下り申候様偏^ニ奉願上候迄可申上候ね斯之
通被仰付候ね其旨相蒙難有奉存候ね然^者
吉日を撰二月ノ六日對馬守様御屋鋪
小川町通^江参上仕候^而右御下知之通御取次衆
中様迄申上候、則御願書由緒書以上四通差上

167

申上候、御請取被成候^而對馬守様御前^江被
差上之暫時有之御取次衆中様御出被仰聞候
御口上之趣願書御取上被為成候、追^而可被為召出
^与之御意候間其旨相心得可被申^与被仰出候
故奉畏候^与御請候^与御請申上罷帰候事
一 牧野越中守様^江参上仕、右之趣田中小右衛門様へ
申上候御事
御国屋敷^江参上仕御役人様方へ右之趣
御注進申上置候御事

168

一 同二月十七日之夕水野對馬様より御差紙
を以明十八日四ツ時神田橋通神尾若狭守様

御屋敷^江罷出可申^与被為 仰付候御請書差上
申候^而隨^而十八日四ツ時御屋敷^江参上仕相伺罷在
候得共御取次衆中様より九右衛門罷出候得^与被
仰候故乍恐罷出申候御座席之次第

一 神尾若狹守様

一 水野對馬守様

一 神谷志摩守様

169

一 何野豊前守様

一 木下伊賀守様

右之通御連座被為成候御次之間^{二而}私共

奉差上候御願書御役人様御持出被成候^而

御読上相済申候上^{二而}若狹守様より被為成

御意候之趣九右衛門国本^{二而者}何を務ル事^二候哉と

御尋御座候、隨^而申上候同役村川市兵衛私義

御城下米子町年寄役義代々蒙相勤罷在候

170

^与申上候得者其上^{二而}被為成御意候

家業^者如何様成売買致候哉と御尋御座候

隨^而申上候私共儀諸商売不仕候右御願書^二

書頭し申上候通元^(マ)錄 九年竹嶋渡海禁制

被為仰出候以後^者因伯之御大守御門

伯州米子之御城主より御憐愍を以渡世仕

居申候段申上候得^者然^者御扶持を得申候

哉と之御尋^{二而}御座候、隨^而申上候、左様^{二而者}

無御座候、米子御城下^江持来り候魚鳥之

171

問屋店之座ヲ私家督^与被為仰附候、則

問屋口錢取仕候事^二御座候并^二同役市兵衛儀ハ

御城下^江入込候塩問屋口錢取被仰附置候

此口錢を以渡世仕居申候、是以乍恐

公方様御太恩之御余光^与奉存難有仕合

奉存候旨申上候、其上^{二而}對馬守様被為成御意

之趣

公方様^江御奉公之筋^者如何有之候哉^与之

御尋御座候、随而申候様御請申上候段恐入

172

奉存候乍去元禄八年朝鮮国王より竹嶋与

申者從古来日本之御支配二而御座候との

御證文を常憲院様御代被為遊

御請取候、然者竹嶋日本之御支配与奉成候

儀者乍恐元和年中村川市兵衛大谷九右衛門

先祖之者共安部四郎五郎様御取持を以テ

御注進仕候二付達

上聞、則日本江被為遊御支配候、依之私共江

渡海被為仰附候、尤右竹嶋より

173

御公儀江極たる御蔵入ハ無御座候得共唐木

之類御用木をも年々公納相勤、元和已来

八拾年之間九年二一度参上之御礼申上難有

仕合奉存候、右之通二御座候得者竹嶋与申ハ日本之

御支配成ル与之聞を御公儀江御取被為遊

候義と奉存候、此段毫末之御奉公二茂相当可申候哉

誠以恐入奉存候得共御請申上之由申候、其上二而

對馬守様被為遊御意竹嶋竹木草類禽獸

海馬之魚鮑なと之儀御尋御座候故随而申上候

174

此趣之儀者委細旧記二書頭し差上申候通二而

御座候由申上候得者先御吟味之儀是迄二而相濟

申候

一 對馬守様被為成御意候趣追日御評儀被

為成候而可被為召出旨被為仰付候而奉畏、則

御役所罷歸申候御事

一 牧野越中守様江参上仕今日御勘定御奉行様へ

被為召出候得而差上申候御願書御見分被為成候

上二而段々御尋之趣御座候、随而委細二御請申上候

175

得者先者御吟味相濟申候、右乍恐御注進奉

申上候旨申上候得者則田中小右衛門様御承知被

成候御事

一 御国御屋敷^江 参上仕右之趣御役人様方^江
委細^ニ御注進申上候御事

一 酉ノ四月十七日水野對馬守様より御差紙を以明
十八日四ツ時御屋敷^江 罷出可申^与 被為仰附候
御請書差上随^而 十八日四ツ時参上仕相伺罷在候
得^者 被為召出候御奉行様方御連座被為成候^而

176

則對馬守様被為成御意候^者 九右衛門差上申候
願書御廻米船借之儀是^者 於大坂とまや
久兵衛越前屋作右衛門と申者年切^ニ 作舞仕申候
御儀定之年^{年限} 相達不申内^者 御役所より

之返事[□]之儀難申附也、然上^者 右兩人之船

借り共へ其方より相對致候^而 船借役人^江 相加り

可申哉、右之通^ニ 候故^者 役所より返過之儀難申付

^与 評義一決申也其旨相心得可申^与

被為仰付候、随^而 御請申上候趣先以及御沙汰

177

申上段難有奉存候、此上追^而 御慈悲相

下り申候儀乍恐御願申上度^与 申上すさり申

候御事

一 牧野越中守様^江 参上仕右之趣田中小右衛門様へ

申上候得^者 御承知被成候^而 小右衛門様御申被成候^者

先刻御勘定御奉行所より寺社御奉行御仲間

様方^江 御使者相立候御口上之趣大谷九右衛門

差上候願書見分申上候評儀申候處船借之儀

於大坂年切作舞仕候者兩人有之候、未年

178

限^ニ 及不申候故役所より返過之儀難申付候得^而

此段九右衛門へ申渡候、尤右船借り兩人^江 相對

致候^而 加り可申哉^与 申聞せ候、右之九右衛門御差

出之儀^ニ 御座候故如此以使者申達候^与 之

御口上書来り申候、則其方罷出御注進被申

上候儀御前^江 可申上候^与 被仰候御事

一 小右衛門様御申被成候^者 御役所御仲間様より

御老中様^江其方共御願書御差上及見分
去年以来壹年半^ニ打過、則御下知相下り此節

179

御勘定所^江其方御差出被成候處、右之
御返答之趣^{ニ而者}御上^江相達御下知

相下り申候處相濟不申候、然^者寺社御仲間
様方御寄合之刻此儀御評儀被為成候^而

又押返其方可被遣候哉^与拙者共ハ存入候、追^而
其方儀可被為召出候之間左様相心得可被
申候^与被仰候御事

一 酉ノ六月二日牧野越中守様より御差紙を以
明三日四ツ時御屋敷^江罷出可申^与被仰附候

180

御請書差上、随^而三日四ツ時参上仕相伺罷在
候得^者田中小右衛門様御出合被成候^而被仰候ハ
先頃其方へ申入候通先月十八日寺社御仲間
様御寄合之節御勘定所へ又々其方御指
出し可被遣^与之御評儀^ニおよび御沙汰申候所
寺社御奉行様より御勘定所之御差図被
為成候^ニ相当り可申哉^与以後之入割之程
御氣付被為成候故重而其方御差出し
被為成候儀^者御優予被為成候、然上^者長崎

181

御奉行所^江御差出見度^与御評儀一決被為成
候^ニ付、先御登城之節於御城寺社御仲間
様方より長崎御奉行所萩原伯耆守様^江
御面談^{ニ而}其方儀御差出被為成^与御達被為
成候御願書相認次第^ニ参上仕可申候^者
被仰付候、尤其節可被申上口上之儀
牧野越中守様より於御城先達^而御達被
為成候伯州米子町人大谷九右衛門御願書乍恐
奉差上候^与可申上候旨被仰付候、其上長崎御

182

奉行様当時御出府萩原伯耆守様
御屋鋪水戸橋長崎御勤番窪田肥前守様
御屋鋪表六町町^与則田中小右衛門様より

御書附被遣、随^而申上候、御下知之趣承知仕
奉畏候、御願書相認其上吉日を撰

伯耆守様御屋敷^江参上可申上候、先以難有
仕合奉存候、乍恐御序之刻殿様御前

宜御執成奉頼上候旨申上罷帰申候御事

一 御国屋敷^江参上仕、右之段御役人様方^江委

183

細^ニ御注進申上候御事

一 酉六月十日長崎御奉行所萩原伯耆守様

御屋敷へ御願書持参上仕候^而則御取次衆

中様^江右田中小右衛門様より被仰付候通之口上

申上乍恐御願書差上申候、御請取被成御下役

中西幸内様御申之儀追付殿様御座敷へ

御出可被成候、其旨相心得可被申^与被仰聞候、其上

^{ニ而}御屋敷^江被為^{（主損）}出相窺罷在候

伯耆守様被為遊御意候趣其方儀国元^{ニ而}ハ

184

如何様成売買申候哉^与之御尋^{ニ而}御座候、随^而

御請申上候私共儀元禄年中竹嶋松嶋両嶋

之渡海制禁^ニ被為仰出以後^者御願書^ニ

書頭差上申候通伯州米子之御城主より

御憐愍を以渡世仕難有奉存候旨申上候、然^者

扶持を得候坎と被為成御意候、随^而申上候左様

^{ニ而}ハ無御座候、御憐愍と申上候儀^者米子御城下へ

諸方より入込申候魚鳥之問屋店之座ヲ私

家督^与被為下置候、同役市兵衛儀^者御城下^江

185

入込候塩問屋口錢之儀被為仰付候^而渡世仕

罷在候、全公方様御太恩之御余光

^与奉存上兩人共難有仕合奉存候段乍恐申上

候得共其上又被為成御意候趣其方共在所^{ニ而}

奉行所^江勤なと申候哉と之御尋御座候、随^而

申上候、兩人共^ニ代々米子町年寄御役相務申候

儀御座候由御請申上候、又竹嶋竹木草類

禽獸海馬之魚蛇なと段々^与御尋御座候

隨_而御請申上候御事

186

一 伯耆守様被為遊御意候_者 九右衛門御上_江差上
申候願書及見分候、長崎表貫物入札連中_江
相加り申度_与之儀此事_者 古来より江戸京
大坂堺駿河長崎皆御領_{ニ而者} 入札連中_江
相加り申者_茂有之也、惣_而御領之外より貫物
入札人数_ニ入候事未其例無之也、我等_者 屯人_之
了簡_ニ不及、尤同役_江可申談也、急_{ニ者} 請込不成
故先_者 左様_ニ相心得可申_与被為仰付候、寺社
御奉行様_{江茂} 此段以使者可申達候_与可被為

187

成御意候、隨_而申上候、乍恐追_而何卒御慈悲
相下り申候段幾重_{ニ茂} 奉願上候旨申上候_而す
さり申上候、中西幸内様被仰候唯今御前_{ニ而}
被為成御意候通御領之外より貫物人数_江相加り
候其例未無之候得_者 御_者 屯人_之 御了簡_ニ難
被為成御事御尤存候、然上_者 追々品_茂可有之
候左様_ニ相心得可被申_与之御事_{ニ而} 御請申上罷
帰申候御事

188

一 牧野越中守様_江 参上仕田中小右衛門様_江 右之
趣委細申上候得_者 御承知被成此趣殿様_江
可申上_与 御申被成候御事

一

田中小右衛門様被仰聞候御口上之趣其方共御願之
儀_者 御老中様被為及御沙汰御差図を以テ
御勘定所并長崎御奉行所_江 寺社御仲間様
方於御城則御面談_ニ被為仰達候_而 其上其方
御差出シ被為遣候處_ニ 則御番御役所より右之
御断_{ニ而者} 相濟不申事候、追_而 御仲間様方
御寄合之節此儀御評義可被為成候、其上_{ニ而}

189

可被為召出候間左様_ニ相心得可有之_与之
御事_ニ御座候、隨_而申上候、私共体之儀ケ様迄_ニ
御苦勞奉懸申上候段千万恐入申上候、然共
御慈悲_者 御上より相下り申儀_ニ御座候得_者

乍恐幾重^{ニ茂}御慈悲之段奉願上候^与申上
罷歸申候御事

一 御国屋鋪^江参上仕御役人様方^江右之趣委細
御注進申上候御事

一 酉ノ八月十七日牧野越中守様より御差紙ヲ以

190

明十八日四ツ時御屋敷^江可罷出と被為仰付、則
御請書差上、随^而十八日四ツ時参上仕相窺罷
在候得^者田中小右衛門様御出合被成則越中守様
御口上之趣此度其方共願之儀由緒正敷有之
付^而御上^江被為成御達御老中様及御沙汰
御差図を以御勘定所并長崎御奉行所^江
其方御差出被為成候所、右両御役人様より右之
御断之儀以御使者被為仰達候、尤其方へ

^茂右之通被為仰渡候条寺社御仲間様方

191

此儀及御沙汰又々押返其方儀右之御両
御役所様^江御差出可被為成儀^ニ候得共其方々之
御奉行所^与申ハ重キ御事^ニ候得^者入割如何哉と
又御用捨之儀^茂有之候、然所其方共儀不便
被為思召候依之江戸京大坂其外於御領
當時御公儀^江之御為次^ニ其身之利潤共可成^与
存付之儀も有之候ハ、品々書付を以罷出御願
可申上候、御吟味之上^{ニ而}宜敷可被為仰付候間
其旨相心得可申^与被仰付候、随^而御請申上候

192

重々以御慈悲之御下知相蒙申上候段千万
恐入難有仕合奉存候、乍恐御前宜御執成
奉頼上候、然上^者御国屋敷^江も此旨相達
可申上と御礼仕候^而罷在候御事

一 御国屋敷^江参上仕御役人様方^江右之趣
委細^ニ御注進申上置候御事

一 御堂上清水谷前大納言様家へ由緒

御座候^而御代々様^江御出入仕候

一 御同家清水谷中将様^{江茂}右御同事之儀^ニ

193

御座候^而則御兩卿樣^江御出入申上候故乍恐御
懇意之趣相蒙難有仕合^ニ奉存上候、六ヶ年
以前未ノ八月江府^江為御願罷下り申候節
右御兩卿樣より被為仰附候之義此度其方
關東へ罷下り申^ニ付
日光宮樣^江御出入被為仰附其上^{ニ而}乍恐
御目見等をも申上候得^者自然御沙門之御慈
悲を相蒙可申上事も可有之候、左候得^者
其方生前之面目不可過之候^与被為思召

194

則宮樣^江御兩卿樣より御頼之御実書手持せ
被為遊可被下候旨御家臣一色主水樣より右之
趣被為仰聞候得^而難有奉存上候、隨^而御請
奉申上候御事

一

清水谷前大納言樣御儀^者則
日光宮樣御外戚^{ニ而}被為遊御座候、則
前大納言樣中將樣御親子樣より兩通之
御実書頂戴仕江府^江罷下り申候^而未ノ
九月五日上野^江登山仕於

195

御殿大西淡路守樣^江迄右之御実書兩通
奉差上候得^者則万里小路民部卿樣御出合
被成候^而御書御請取、則宮樣^江御差上
被為成候、其上^{ニ而}又御出合被成私へ被仰付候ハ
其方儀^者清水谷前大納言樣中將樣より
宮樣へ御実書を以御頼之趣御申被為上候
依之則御出入之儀被為仰附候、其上
御目見之儀宮樣明後七日日光^江御登
山被為遊候、還御以後可被為仰付候間其旨

196

相心得可被申候^与之儀^ニ御座候、其上国本^ニお

体^ニ被致候哉

ゐてハ如何樣之壳賣体^キ候哉、尤国主へも
年始之御目見をも被致候哉、格式等之儀
如何と御尋被為成候故御請書奉指上候事

乍恐口上之覺

○一 元和四年從

右御請書元和四年從御公儀樣御奉書奉頂戴
仕竹嶋_江渡海仕彼嶋_{ニ而}之所務を以渡世仕

来難有奉存上候、然所元錄_(イイ)年中右之嶋_江

朝鮮人不慮_ニ渡海仕申候_ニ付其已後竹嶋へ

197

渡海仕候儀制禁_ニ被為仰附候得_而私共儀
家業を失渡世難仕候所從

台徳院樣御代常憲院樣迄

御代々樣_江參勤之独礼申上来候者共_ニ御座候
得_而則因伯之御太守御内伯州米子之

從御城主御憐愍を以御城下_江入込申候

魚鳥類之問屋店之座を私家督_与被為

仰附置候、此儀を以渡世仕難有奉存罷在候

并御太守御在国之節_者年始為御礼

198

御目見申上候、右之趣乍恐御請書奉差上候、以上

元文四年

米子町年寄

未九月六日

大谷九右衛門

上野御坊官中樣

右之通御請書奉差上候御事

一 宮樣_江未ノ九月廿三日日光より遣御被為遊其

已後十月十五日御目見被為仰附首尾能

御目見申上難有仕合_ニ奉存候御事

一 申正月廿六日年始之為御礼宮樣_江

御目見被為仰附首尾能独礼申上候難有

199

奉存上候是より例年正月廿六日御定日_{ニ而}
年始之御目見申上来り候御事

一 申七月九日從宮樣牧野越中守樣へ

院

龍王院家為御使伯州米子之町人

大谷九右衛門儀京都清水谷前大納言殿家へ

御心安御出入申候^ニ付彼ノ御方より御頼故則

宮様へ御出入被為仰附候、其上御目見等

を^茂申上候、依之右之九右衛門儀此度

御公儀^江御頼之筋申上候得^者宜御取作舞

200

被遣候様^ニ此段御内々^{ニ而}宮様御頼^ニ被為思召候

旨被為仰進候^ニ付、則越中守様より御内々

^{ニ而}御請被為仰上候、右之趣申ノ七月十二日

上野於御殿大西淡路守様を以被為

仰越難有仕合奉存上候御事

一 西十二月十八日宮様より太守様迄米子

町人大谷九右衛門儀元禄年中竹嶋渡海之

儀制禁以後^者則從御城主御憐愍を以

渡世いたし居申由、此已後只今迄御申付被

201

置候之通万事不相替被仰附置候^者

宮様御悦可被思召之旨万里小路民部卿

承り御上意之趣御手紙^{ニ而}護法院院家

被為仰渡候、依之院家則御国屋敷へ

御出入被成候御事

一 西ノ十二月廿六日、從御太守様

宮様^江御上意之趣為御請御使者蓮花寺

五郎八様上野^江御登山被成護法院迄

右御請被為仰上候御口上之趣

202

一 大谷九右衛門儀御公儀^江御願之筋御座候此已後

相繼^而御願申上候^者役人共評儀いたし遣可申候此

御口上^者護法院迄被仰進候御事

一 西ノ十二月廿七日万里小路民部卿様より御使札ヲ以

御用之儀有之候故上野御殿^江参上仕可

申之旨被仰附候、随^而参上仕相窺罷在候

所則民部卿様御出合被為成被為仰付候御口上

之趣從宮様国御屋敷^江其方儀

護法院為御使御内々^{ニ而}御頼被為思召

203

候之旨被仰遣候御上意之為御請

蓮花寺五郎八と申仁昨日登山_{ニ而}御請之儀

護法院迄被仰上候、依之右之趣申渡候重キ

御事其方家旨ハ子孫_ニ至重々難有奉存

可被申候、尤国御屋敷御役人中_江右之趣

御礼可申上旨被為仰附候、随_而冥加至極

難有奉存_者御請申上候御事

一 翌廿八日上野御殿_江参上仕乍恐右之

御礼御坊官衆中并護法院院家へ右之御礼

204

一 同日御国屋敷へ参上仕候得_而御役人様方まで

乍恐右之御礼奉申上候御事

一 京都吉田左兵衛督様_江由緒御座候_而私義

御出入仕候御当家御廉中様御儀_者若年寄

本田伊豫守様御息女様_{ニ而}渡せられ候_ニ付

六年已前未ノ八月私関東_江罷下り候節、則

吉田様より伊予守様_江大谷九右衛門義御頼之

趣御書頂戴仕於江府右之御書御家来

中條六郎右衛門様迄差上置、依之未十月

205

廿八日伊豫守様御目見被為仰附蒙御懇意

難有仕合奉存候、其後御客対被為成候節_ニ

_茂御目見仕御公儀_江御願万端御内々御

懇意蒙り候御事

伯州米子町人

大谷九右衛門

延享元年

子五月日

206

右_者元文寛保之際御公儀_江御訴詔之御請并竹嶋渡海

之次第先規より書附之写荒増如茲御座候、尤竹嶋渡海制禁

之後享保九甲辰四月御公儀御尋之儀_ニ付委細御請書仕

鳥府表_江差上之候、因茲右祖父大谷九右衛門事、元文五年

四月参府仕御訴詔之趣自分日記迄相写シ置候、尤右延享

元年より当時天明四年迄四拾壹年_ニ相成申候、以上

天明四甲辰四月日

伯耆国米子町人

村川市兵衛

大谷政太郎

207 (白紙)